国立国語研究所学術情報リポジトリ

An experimental sociolinguistic study on conversational behaviour

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-03-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 江川, 清, EGAWA, Kiyoshi
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001061

談話行動の実験社会言語学的研究

——目標と資料収集方法について——

江　川　　清

はじめに

われわれは言語行動，ことに談話の行動様式を研究するための方法について国語研究所内外の多くの仲間と共同で討議を行ったり，資料の収集を行っている。この研究は今年度から始まったものであり，まだ構想の域を出ない面が多い。各方面の方々より御助言いただければ幸いに思う。

本稿では研究目標やそのための資料収集の方法などをごく大雑端に述べる。これに続く江川，杉戸，米田の三篇の論文で，われわれがねらっていることの具体的な方策の一部を示すつもりである。この三篇はそれぞれの執筆者が独自の観点で記したものである。この中には共同討議の結果，ある程度は一致したものもあり，また統一見解が得られていないものも含まれていよう。したがって，この三篇で互いに矛盾した記述があるかも知れないことを断っておく。

人間のコミュニケーション行動を，言語的（verbal）コミュニケーションと非言語的（non-verbal）コミュニケーション——話しことばを中心に考えれば，音声的（vocal）と非音声的（non-vocal）——とに区分して考えることが多い。Hinde[1]はこの二つのコミュニケーションの関係を，

音声的コミュニケーション

- 反射音（咳ばらい，くしゃみなど）
- 声の質（個人，集団などのインデックスとなるもの）
- ことば——言語学的——言語的
  - 韻律的（抑揚，強弱など——文法構造に関係）
  - 無分節的——副言語的（身振り，目の動きなど——言語的コミュニケーションを支持）

非音声的コミュニケーション——身振りなど——言語的コミュニケーションとは独立

のように図式化している。この他にもいくつかの分類がなされているが，現実のコミュニーション行動の大部分は音声的・非音声的の両者が共存ないしは補完しあった形でなされている——たとえば，Hinde の図式の中の副言語的(paralinguistic) なものは，音声的なものに付随するものにすぎない場合がある反面，むしろこちらの方が主となる場合も多い。

従来，コミュニケーションの音声的あるいは非音声的の二側面は，それぞれ別個にとりあげられた研究は数多くみられるが，それらを総合的に関連づけているものは少ない。われわれの究極的な目標はこの総合的な観点からコミュニケーション行動の実態を明らかにすることであり，そのコミュニケーション・モデルを作成することである。そのための記述の方法や分析の枠組みを確立しようというのが当面の大きな課題である。

コミュニケーション行動は社会言語学的研究が指摘しているように，行動の生じる場面や行為者間の社会的・心理的諸関係などによっていろいろ変化するものである。われわれとしてもいろいろな場面や状況の中でコミュケーション行動を研究したいのではあるが，先行モデルがほとんどない現状ではあまり多くの場面をとりあげても消化不良を起しかねないと思われる。そこで，当面は研究対象を“座談”の場面に絞り，座談メンバーの構成を実験的にコントロールし，その中で生じるすべての言語行動を観察・記録することにした。この研究は，言語的・非言語的な多角的な観点から分析しなければならないため，多分に試行錯誤的な色彩が強い。そのため資料の収集にあたっては，いろいろな段階で繰り返して観察・検討することが可能なビデオ録画方式を採用した。

なお，コミュニケーション行動は文化の型と強い連関をもっていることを考え，日本の二大文化圏の中心たる東京・大阪の両地域で資料収集を行っている。

資料収集の方法

1. 場　　面

われわれがとりあげた座談場面は，参加メンバーに自分の生活空間とは離れ

た会場に出向かせ，様子のわからない他のメンバーとコミュニケーションをもつことを強いられるという側面がある。一般の人々にとってはこのような経験は皆無であるか，また，あったとしても希な場面でもある。いいかえると，買物[2]とか乗物に乗るとか雑談するとかいった誰でもが日常の生活の中で頻発に行っているような場面に対し，座談場面はきわめて特殊であり，“生の言語生活”からほど遠いものである。

このような問題点が認められるにもかかわらず，あえて座談場面を対象とした最大の理由はビデオ資料が比較的得やすいことにある。資料の得やすさというのは，ビデオ録画に必要な照明やスペースなどの物理的条件の他に，参加メンバー全員が録画を承諾してくれていることにもある。第二の理由は，座談は人工的に構成される場面である点にある。つまり，参加メンバー相互の組合せは観察の側である程度まで恣意的に決定しうることであり，ひいては後の分析にこれが役立つことである。

2. 座談グループの構成

一つの座談グループは原則として，司会者１名と４名の被調査者とから成り立っている。司会者はわれわれの研究グループの(依頼を受けた)者があたり，他のメンバー相互間の自由な発言を妨げないよう留意しながら談話をリードした。しかし，いくつかのグループでは司会者の属性――性，年齢など――を変えたり，司会の進め方――聞き出し役，自分もメンバーの一員として積極的に参加，あるいは標準語だけを使うか被調査者と同一方言を使うかなどに変化をもたせるようにした。

また，被調査者の組合せにあたっては，生育地，性，年齢，親疎関係などを考慮したが，録画の都合上一定の会場に集めることや歓談しやすい条件をつくるなどの制約から，事前のコントロールがうまくいかなかったグループがいくつかみられる。なお，生育地については次項に示す各調査地点での二世以上の者を対象と決めているが，一世も若干含まれている。ここで被調査者をネイティヴとしたのはあとの分析のために変数をできるだけ少なくしておきたいからであり，ある程度研究が進んだ段階ではこの制限をはずしたいと考えている。

1グループあたりの座談時間はおよそ1～1.5時間である。

3. 調査地域・時期

この研究は正式には昭和52年度から出発したものであるが，その前年の51年度から資料の収集を行っている。現在までに調査が行われたものは，進行中のものを含め，以下の3地域である。

地　域	調査時期	録画場所	録画資料	録音のみの資料	第一次文字化済資料
船　場* (大阪市)	51.8.9 ～11	人間組織研究所 会議室	5	6	11
中河内** (大阪府)	52.9.6 ～ 9	朝日広告社大阪 支社スタジオ	8	1	3
下　町*** (東京都)	52.8.3 ～17	国語研録音教材 編集室	3	0	3

* 島之内，堂島を一部含む
** 南河内を一部含む
*** 11月以降にさらに資料拡充の予定（現時点では計6グループ完了）

第一次文字化は原則としてカナ表記・文節分かち書きであり，ポーズやイントネーションなどの情報は付加されていない。非音声的コミュニケーションとの対応をはかるためにどのような文字化テキストを作成すべきかが今後の検討課題の一つである。

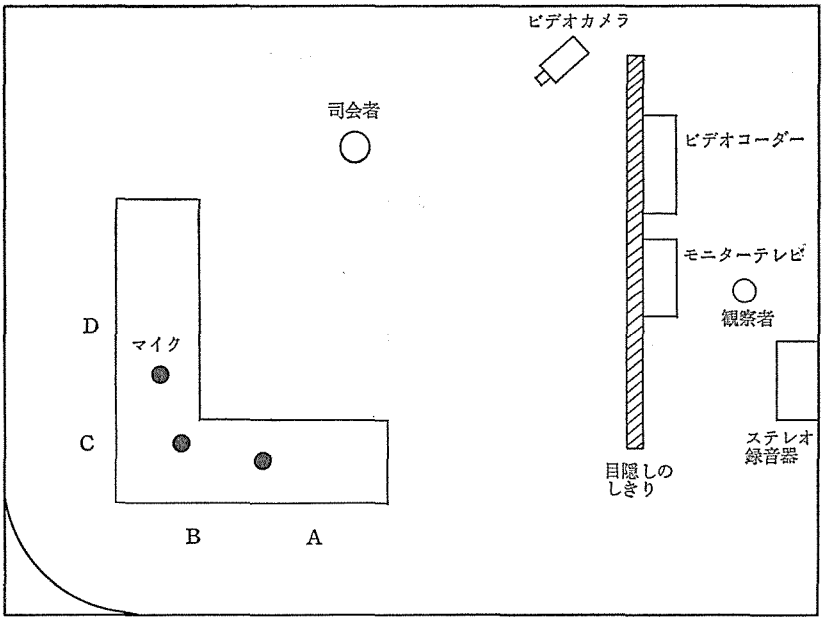
4. 録画の方法

録画資料の作成にあたっては，国語研究所(3)あるいは大阪外国語大学(4)所蔵のビデオテープコーダを用いた。また，ビデオの音声をカバーするために，これとは別に2台のマイクロホンを用いてステレオ録音を行った――音声の文字化は主としてこのテープから行った。

使用会場の構造や座談メンバーの人数の関係で録画・録音のための機器や人員の配置はやや異なるが基本的には下図のようになっている。

ビデオカメラの操作は，座談の始めの自己紹介時のみ発話者ひとりひとりをアップで追ったが，あとは主としてA～Dの4名の被調査者全員が同一画面に

録画・録音のための配置図（東京下町地区の場合）



収録されうるよう[5]にロングで撮影した。ロング撮影を行ったのは，われわれの目的からすると話者の動きと同じくらい（以上）に聞き手の反応をも記録しておく必要があると考えたからである[6]。

5. 資料の制約

このようにして得られた資料には，先に述べた場面の制約の他にもいくつかの制約がある。一つは写されているという緊張感を被調査者に与えていることである――ロング撮影の段階ではカメラのそばは無人であることから多少は緩和されたようではあるが。第二は現行のビデオ機器の解像度にかかわることであるが，表情とか視線の方向といった微妙な面の分析には耐ええないものであること[7]。この二点はわれわれの資料のみならずビデオ観察全般がもつ短所であるが，この資料独自の制約も多い。たとえば，撮影の都合上被調査者を椅子に腰かけさせたため，彼らの自由な動きの大部分を封じてしまったことやからだの上半身の動きしか観察しえなくなっている。また，椅子の配置が不自然

なため，被観察者間のコミュニケーションの方向に何らかの影響を与えている恐れが強い(8)。

この種の不自然さは今後可能な限り取り除いていきたいと考えている。

おわりに

現在われわれは次のような事項の整理・分析にとりくもうとしている。

1) 非言語的な行動の要素を抽出し，行動観察のための指標となるカテゴリー表を作成する。
2) 録音資料をポーズ，ストレス，イントネーションや相手や状況による音の高低などの事項を含む形でテキスト化する。
3) 録画資料を「行動記述」「行動の文字化」というべき形でテキスト化する。
4) 2と3とが対応する資料を作成する。
5) 談話の時間的経過に伴う，話題の変化，発話量，コミュニケーション・ネットワークの成立・変化などを記述，分析する。
6) 談話における話しことばの文章・文・単語など（狭義の）言語的分析を並行して行う。
7) 話しかけ型対受け型といったような被調査者のタイプ別の談話行動特性を調べる。
8) 東京・大阪の各資料を比較し，談話行動の地域差について一事例研究を行う。
9) 言語的・非言語手段によるコミュニケーションを総合した言語行動モデルを求める(9)。

最後に，本稿に続く三篇で共通に用いた<資料>について簡単にふれておく。これは昭和51年8月9日，大阪市「船場地区」で収録した五つの資料のうちの一つである。文字化部分は座談の中間あたりの約6分間である。テキストとしてはきわめて不充分なものであり，これが最終テキストのサンプルではないことを断わっておく。

〔付記〕本研究は昭和52年度文部省科学研究費特定研究「言語」(「談話行動の実

験社会言語学的研究」代表者　渡辺友左）を受けて実施したものの一部である。

注

（1） Hinde R, A. (ed.) 1972 "Non-verbal Communication", Cambrige Univ. Press.

（2） 洋服，呉服の買い物での言語行動を調べたものとしては，杉戸清樹・沢木幹栄 1977「衣服を買う時の言語行動——その諸側面の観察」言語生活，No. 314 がある。

（3） Sony AV-3500（オープンテープ用）および Sony-2950（カセットテープ用）

（4） Sony AV-3600（オープンテープ用）

（5） 会場の広さや被調査者の人数によっては，司会者も画面に収まるようにした。

（6） 予備撮影で発話者ひとりひとりをアップで追う試みをしてみたが，1台のカメラだけでは発話者の交替を追跡することは不可能であった。ビデオ装置を複数にすることができれば，より細かい動きをもとらえることができようが。

（7） ビデオ観察の長所短所については，辻敬一郎，松田惺，1974「観察法のための装置，設備」（続有恒，宇阪良二編『心理学研究法10　観察』東大出版会），山田寿子，飯高京子，1977「言語発達観察法に関する研究—乳幼児期の母子相互関係を観察対象として」教心研，25，3，などを参照されたい。

（8） Hall T. H. 1966（日高敏隆，佐藤信訳）『かくれた次元』みすず書房（1970）など proxemics 研究では，人と人との間の距離や位置が非言語的コミニュケーションの重要な地位を占めるとされている。

（9） 国語研究所では本研究以外にも二つの言語行動様式の研究が行われている。「日独語の対照言語学的研究」のうちの「日独語各話者の言語行動様式の対照的研究」と「日本人と外国人との言語行動様式の比較対照的研究」とである。前者は筆者らも参加しているものであり，後者は日本語教育センターで行われている。われわれのを含め，この三つの言語行動様式の研究は少しずつ視点が異なっているものであるが，互いの成果をうまくとり入れることによって総合的な言語行動モデルに近づけることができるであろう。

＜資　料＞

M1　薬品問屋の男性
M2　文具関係の男性
M3　子ども服店の男性

——部は固有名詞
（　は，ほぼ同時発話

F1　M3の妻
C　司会（国研職員）

ことばのこと

001-0　C　アノー　チョット　コレワ　コトバノコトナンデスケレド　ドウナンデショウ　タトエバ　ソーユージダイノデスネ　アノーマ　センバッテ　イイマスカ　アノー　コノアタリノ　コトバトイマノ　ソノコトバデスネ　アノ　オーサカベント　イイマスカ
-1　M1　エー
C　ソノカワリカタッテノワ　ドウデスカ　ドーオカンジニナリマスカ

002-0　M1　ソレワナ　コレネェ　ドージマ　ドージマニ　キタハマネェ
-1　C　ハイ　ハイ
M1　ネェ　ドショーマチ　コーユートコロワ　コトバガ　キタナカッ
-2　C　ハイ
M1タンデス　オンナジ　センバデモ　ホイデ　ホンマチカラ
-3　C　アー　ソーデスカ　アー
M1　ホンマチカラ　キューホージマチニカケテ　マダ　ヨカッタンデス　シカシネ　ナイブニ　ナイブノデワ　アー　マダ　トクベ
-4　C　ア　ハイ
M1ツニ　ヨカッ　コトバガ　ヨカッタタンデナ

003-0　C　ソノ　センバデモ　イクツカニ　ワカレル　ワケデスカ

004-0　M1　ソー　ソー　ソー　モーネー　ショーバイニン　ショーバイスル
-1　C　エー
M1　スルノニワ　コトバガ　ワルインデス

005-0　C　ホー　アノ　イマ　キタハマトカ　ドウ　ドージマト　オッシャイマシタネ

006-0　M1　エー　ドージマ　キタハマネ

米相場

007-0　M2　ドージマトユータラ　コメソーバヤッタンデス　ムカシカラ
-1　M1　コメソーバダ

008-0　C　ソ　ソレ　ソレワ　モウ　モンバ　センバデワ　ナイノデスカ

009-0　M2　エー　オマヘンノヤケドネ　ソレネ　コメソーバニ　デタヨッテネェ　ムカシ　デンワトイウモノガ　ナカッタンダー
-1　C　ハイ　ハイ

旗振り

(010-0　M1　ソレデ　ウエガ
(011-0　M2　ソイデ　アノ　ドージマノ　イマ　オーエバシオ　ワタッテ
-1　C　チョット　イッタ　ハスイチガ　オマンネェデ　デ　ソコノ　ハイ
M2　ウエデ　モー　イマデユータラ　ニカイ　サンガイ　ヨンカイ

グライノ　タカイ　タカミノ　ウエデ　アガッテ　シロイ　ハタ
-2　C　ハイ

M2　モッテネー　コウ　ソーバオ　アノ
-3　C　ハイ

012-0　M1　ソレネ　イマ　ナニオ　ショーケンガイシャユータラネ　ムコ
-1　C　エー　ハイ

M1ニ　カイテマンナ

013-0　C　アー　テデ　ヤリマスネ

014-0　M1　ウン　ソレデ　ムコニ　カイテマンナ　ソレオネ　アノー　エ
-1　C　エー　ハイ　エー

M1ンボーカラナァ　ハタデ　シンゴースルンデス

015-0　C　テバタシンゴーデスネ　コレワ

016-0　M2　ソレデネ　ハタ　フッテテネ　ソレオ　マーユータラ　ジュシ
-1　C　ハイ

M2ンダンナー　ウケトルンノガ　コノ　シタデラマチノナァ
C　ハー

M2　クジラザカノ　ウエデ　ウケトンノ　クジラザカノ

017-0　C　ソレ　ドノクライ　ハナレテイルンデスカ

018-0　M2　エ　ダ　ダイブ　アリマンナ

019-0　C　イチリグライ

020-0　M1　ソレ　イチリグライ　イジョーアル

021-0　M2　エー　モー　ゴキロ　ヨンキロ　ソ　ソ　ボーエンデッセ　ミ
テンノワ

022-0　C　ボーエンデ

023-0　M2　ソ　ボーエンキョーデ　ミテンノワ　ミテテ　ソレカラ　マタ
-1　C　ホー

M2　ネ　イコマハンノ　ヤマゴシデ　ウケマンネエ
-2　C　エー　ヤマゴシデネ

024-0　C　マ　マタ　テバタ　アノ　テト　ハタデ

025-0　M2　アー　ハタデ　ミーンナ　モ　デンワ　オマヘンノヤ
-1　C　ホー

026-0　M2　コノ　エライ

027-0　M3　テバタヤナイ　オオキナ　ハタ　オオキナ　ハタ　イッポン
-1　C　イ
-2　ッポンデ　ホー

028-0　M1　シカシ　アレワー　ワ　ソノ

電灯

029-0　M2　コノ　コノ　シンサイバシガナァ　ソモソモ　デンキ　デキエ
-1　C　ハイ

M2タンガ　メイジ　ジュウ　ア　アノ　ニジュウハチネンダ
-2　C　ハー

M2　マ　ヨーシナモンヤ　ニジュウハチネンニ　デントー　ソレモ
-3　C　ハイ

M2　ヒャクボルトトイウ　イマ　ケイコートーデワ　オマヘンデ
ガ　デキタンタ　ワタラノ　ウラマチノトコワ　メイジ
-4　C　ハイ　ハー

M2　サンジュウヨネンダ　デケタンガ　オソイ　ソレガ　ゴジュウ
ワットダ　アレ　アノ　ナニヤ　ゴジュウボルトダ　シンサイバシ
-5　C　ハー

M2ワ　ヒャクボルトデ　ソレデ　ワタシラガ　モウケタンガ　ハク
-6　C　ハイ

M2ショクコウ　イッコダシテ
-7　C　ハイ　ハイ

三部制

030-0　M2　ネー　イマノ　デンキノ　ユライテノワ　エー　オソラク　シ
ラハリマヘンデ　サンブセー　ナッタンダ　サンブセイデネ
-1　C　サンブセイ　ヘー

M2　ロクジニナッタラ　ブウーット　トボッテキマンネ　ロクジニ
-2　C　ハー

M2ナッタラ　デ　ジュウニジニ　モー　ケエルゾ　ユータラ　ズウ
-3　C　ハイ

M2ーット　ケエルノガ　コノ　ハンヤトーダ　デ　リョウリヤトカ
-4　C　ハー

M2　インショクヤトカ　リョカントユーノワ　サンジトーナンデ
-5　C　ハイ　ハー

M2　サンジニ　キエマンネ
031-0　C　サンジデスカ
032-0　M2　ヘ　シューヤトートユート　ビョーイント　コーエント　エキ
ダケダモンネ　モ　ソウユーセイド　ナッテタン　ソンナ　オソ
-1　C　ハー　エー

M2ラク　サンブセーテノワ　シッテルシト　オソラク　オマヘンワ
イマ
033-0　C　ソレワ　ショウワノ　ハジメニワ　モー　ナイワケデスネ
034-0　M2　ショーワヤ　オマヘンワー　メイジダワ
-1　M3　メイジモ
035-0　C　ア　メイジモ　メイジ

ガス灯

036-0　M1　アレワ　ガストーノホーガ　ハヤカッテンナ　デントーヨリ
-1　M2　エーッ

ガストウノホーガ　ハヤカッタナ
037-0　M2　イイエ　ガストーワナ　マントルデネ　ア　シンサイバシニ
-1　M3　ガストーワナ
-2　M1　マントルヤ

M2　ニホン　アッテ

038-0　M1　エーエー　コウヤッテネ

039-0　M2　イマノ　ガストーユーノワネ　ネンリョーガ　シュタイデショ
-1　C　エー　エー

M2　ソノジブンワ　デントーガ　シュタイダンネン　マントルト

ユーテネ　キヌノナァ　ホソナガイヤツオ　パット　モヤスト
-2　C　ハー
-3　M1　マントルヤナ

M2　ズーット　カッコ　ナリヨンネ　ソレガ　アオイ　アカイヒ
-4　C　エー

M2　アノ　アカルイ　デントウト　タチウチ　デキンホド　アカル

イノヤ
-5　C　ホー

街灯

040-0　M1　アイツワ　ナンデスナァ　アノー　コウ　コウ　ツケ　ツケル

ヤツガナァ　クチエ　マッチ　クワエテ
-1　C　ホォ

041-0　M2　イヤ　アリャー　ガイトーダンガ　ヨツカドノ　ガイトーダ
-1　F1　アノー

M2　アリャ　アサ　アノ　ソウジニ　キマンネ　アサネ　コノ
-2　F1　ソウジニ　キハルンネ　エーエー
-3　C　ハー

M2　マ　デントーノ　カワリニナァ　ガイトーユーテ　ミナ???
-4　C　エー

042-0　C　ソレモ　メイジデスカ

043-0　M2　エエ　ムロン　メージ
-1　F1　メージ

044-0　C　ショーワニワ　モウ　ナカッタンデスカ

045-0　F1　ナカッタンデス

046-0　M2　エエ　ソンナモン　ショーワ　オマヘンワナ　ア　ショーワネ

047-0　M2　ソレカラ　アノー

048-0　F1　キャタツ　カカゲテネー　ア　アノー
-1　M2　エー

049-0　M1　ハシゴ　カケテネ

050-0　M2　ロクジニナッタラ　ハシゴ　カケテ　マッチ　ジュッポンホド
-1　C　エー
-2　M1　エー

M2　クチシテネ　ピャート　ツケテ　コウヤルワ　トクシュニマワ
-3　C　ハイ　ハイ
-4　M1　ソヤー
-5　F1　ヒー　ツケテ

M2リマンネ

石油

051-0 M3 ア アリャ セキユヤナ セキユダンナ セキユ
-1 M2 エー エッ ソソソ
M3 モットンタン セキユヤ
-2 M2 アア
-3 M1 アア セキユヤ

052-0 M2 アア モウ セキユバッカリダ セイ ワタシラ ジュウニノ
チイソナッテカラ セキユオ カイニクルモネ ソノ コノー
ムコウヤ チョウド アノ アマガサキノ アノ フノマチ
バシ ソコノナ ヒラノヘイベイトイウトコニネ スタンダード
ノ セキユノ ジョーマツジルシトユーテ チャーント
キレイナ ハコ フタカン ハイッテマンネ ヨエンジュッ
センダ ハァ フタカンデ
-1 C ホー

053-0 C ヨエン ジュッセンガ メイジナンネンデスカ

054-0 M2 ヒトカンデ ゾクニユー マア ニエンゴセンダスナ

055-0 C ハー ソレワ メイジノ オワリゴロデスカ

056-0 M2 エー ソーダンナ ソウドッシャロナ ワタシ ソ ソ ソヤ
メイジイッパイダンナ ヤッパリ

057-0 C ト ユーコトワ カナリ タカイデスネ ソノトージトシテワ

058-0 M2 タ タカイケレド アンマリネ フタカンテユウ カウ ワレ
ワレノバアイ デッチモ ？？？？ イキヨッテニ カイニイキ
-1 C ハー
M2マッケド モー ミナ マイニチ アブラ ウリニ キマンネ
-2 C ハー
M2 アブラヤー アブラヤーユーテ イリヨウガイダ ワリカタ
-3 C ホー

ランプそうじ

059-0 M2 デ ワタシラ モウ アサ ハチジニ ショクジシタラ モウ
-1 C エエ
M2 カテイデ ランプソウジ コレ キマッタモノダ ランプノ
-2 C フーン
M2 ソウジスルノワネ モー

060-0 M3 アレワ デッチノ シゴトヤッタ

061-0 M2 アー モー コレモ ミンナ デッチコーノ シゴトダ フー
-1 C アー
M2ン ソリャ ヨーチナ モンダケドナ